

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|--------------------|---------|------------|
| 事業所番号 | 4071000766 | | |
| 法人名 | 有限会社 ケアサービス九州 | | |
| 事業所名 | グループホーム ふれあいの家 笹丘 | | |
| 所在地 | 福岡県福岡市中央区笹丘1-14-18 | | |
| 自己評価作成日 | 平成22年7月3日 | 評価結果確定日 | 平成22年10月2日 |

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|---------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部 | | |
| 所在地 | 福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階 | | |
| 訪問調査日 | 平成22年8月23日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設から9年が経過し、重度化される入居者様も多くなってきたが、職員一人一人が愛情を持って入居者様の介護をさせていただいている。ご家族も苑へよく足を運んで下さり、ご家族同士の交友関係が築かれている。家庭的な雰囲気、入居者様安全で毎日を笑顔で過ごしていただけるよう力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市街地に位置する閑静な住宅地の中に位置している。社員寮を改修して利用されている建物は落ち着いた佇まいを見せ、歴史を重ねてきた柱の色や室内の様子からは、懐かしさや安心感を感じる。ある意味ホームのキーパーソンを務める愛犬「ゴンタ」の存在は、入居者のみならず、家族や職員へも穏やかな潤いある時間を提供しており、心の安定を齎している。また地域との橋渡し役としても存在を示しており、子供たちとのふれあいや地域との交流にもつながっている。介護・医療の経験豊かな職員も多く、様々な角度から個別支援へのアプローチを行っており、「地域社会と共に理想的な介護サービスを提供する」という理念が浸透・共有され、実践に向けた自然体での支援が印象的である。入居者本位の日々の暮らしを大切にしながら、家族との連携の中で、行きたい所、食べたいもの、生まれ育った故郷訪問等の希望が、出来る限り実現するよう、時には運営者自らハンドルの握り、県外に出掛けることもある。生き生きとした職員と、家族・地域との連携の中で、地域密着型サービスとしての本質的なケアの充実に取り組んでいる事業所である。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 該当するものに 印 | 項目 | 取り組みの成果 該当するものに 印 |
|--|---|---|---|
| 58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27) | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21) | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40) | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22) | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

| 自己評価および外部評価結果 | | | | |
|-----------------|-----|--|--|---|
| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 |
| | | | 実践状況 | 実践状況 |
| 理念に基づく運営 | | | | |
| 1 | (1) | 理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 運営理念である『地域社会と共に理想的な介護サービスを提供する』を目標に玄関に掲示し、取り組みを継続している。運営理念は重要事項説明書・パンフレットにも明記し、実践することで、地域との交流を図っている。 | 地域密着型サービスとしての意義を理念に示し、その実現に向け継続した取り組みが行われている。入居者本位の日々の暮らしに基づいた、自然体での地域との交流が行われている。 |
| 2 | (2) | 事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 日常の買い物は地域商店街での買い物が多く、散歩時の挨拶や夏祭りの参加で、馴染みの関係が築けている。また、歌のボランティアさんの来苑、月に一度の民生委員さんが訪問して下さり、地域との自然な交流がある。 | 地域の商店街へ、日々の食材(魚・野菜等)の買い物に出掛ける等、日常の暮らしの中での交流がある。愛犬「ゴンタ(介護課長)」は、地域のワンワンパトロール隊にも参加し、地域住民・子供達との交流の橋渡し役を担っている。地域住民である職員も多く、行事の際には職員家族の協力を得ることもある。 |
| 3 | | 事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 隣近所の高齢者夫婦に当苑で利用している訪問マッサージの事業所を紹介したり、年末に行っている餅つきを近隣の子供達と一緒にに行い、ご近所にお餅を配っている。 | |
| 4 | (3) | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 二ヶ月毎に開催している運営推進会議では、ご家族の参加も多く、地域包括支援センター、民生委員、町内会長に参加していただいている。毎回近況報告と行事内容の発表を行い、地域の方からもお祭り等イベントへのお誘いをいただいている。 | 開設して9年目を迎えている中で、多くの家族の参加を得ており、入居者の方々も加わりながら、民生委員・町内会長等のメンバー構成にて定期開催されている。会議の中での意見や提案はその都度検討し、運営に反映するよう努めている。地域との交流窓口としての役割も果たしながら、パレードや新型インフルエンザ等についての、情報発信も行われている。 |
| 5 | (4) | 市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議には毎回参加していただき、ご家族からの質問があった場合など連絡を取り合い意見交換を行っている。 | 運営推進会議には、地域包括支援センター職員の出席を得ており、また日常的にも意見交換・情報共有が行われており、協働関係の構築に努めている。 |
| 6 | (5) | 身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 玄関の鍵は夜6時までは掛けずにご家族や地域の方が気軽に出入り出来るようにしている。靴箱の扉も外し、入居者の方が靴をはいて外に出られた場合には、職員が必ず付き添い散歩に出かけるようにしている。 | 毎月行われるミーティングの中で、身体拘束委員会が開かれており、運営推進会議の中でも、随時事例等を報告しながら共有の認識となるよう取り組んでいる。入居者一人ひとりの方々の行動の理由について考察を重ねながら、さりげなく寄り添い、見守りを行っている。 |
| 7 | | 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 身体拘束委員会を発足し、毎月のミーティングや勉強会で話し合う機会を設けている。虐待防止に関する研修にも参加し、研修報告書や口頭で防止に努めている。 | |

福岡県 グループホーム ふれあいの家笹丘

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | (6) | 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 運営推進会議で、地域包括支援センターの職員から制度の説明をしていただくなどの取り組みがある。過去に成年後見制度を活用した事もある。 | 現在、権利擁護に関する制度を活用している方はいないが、運営推進会議の中で、地域包括支援センター職員より、成年後見制度や日常生活自立支援事業に関する情報提供が行われている。これまでに制度活用に向けて支援を行った実績もある。 | |
| 9 | | 契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時には、代表者と管理者の2名で十分な説明を行った後、家族のご理解をいただいた上で署名を頂いている。また、ご家族からの要望等があった場合には随時改定できるようにしている。 | | |
| 10 | (7) | 運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者ならびにご家族の方々とは日ごろからコミュニケーションを取り、不満や要望を汲み込むよう努力している。苦情・要望があった場合には専用のノートに記入し職員全員が目を通し、運営に反映させている。投書箱の設置や重要事項説明書の中に苦情サービスの連絡先を記載することでご家族や利用者が外部へ意見を表せる機会も設けている。 | 運営推進会議へは、毎回多くの家族の出席を得ており、家族意見の表出の機会としても活用している。各担当者により、2ヶ月毎に作成されている個別の「ふれあい通信」には、生活状況や健康状態、医療活用の状況が、詳細・具体的に記載されている。開設して9年目を迎える中で、家族との連携を積み重ね、認知症への理解を育みながら現在に至っている。 | |
| 11 | (8) | 運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月に1度のミーティングには職員全員が参加し、自由に意見出来るようにし、代表者と管理者と職員が個別で面談し、意見や提案を反映させている。 | 毎月行われているミーティングやカンファレンスにおいて、活発な意見交換が行われており、職員意見を吸上げながら、運営に反映させるよう取り組んでいる。 | |
| 12 | | 就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員は毎年考課票で自己採点をし、仕事を振り返ってもらっている。勤務は職員の希望を優先に休日を取れるようにしており、有給休暇も取りやすい環境を作っている。 | | |
| 13 | (9) | 人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している | 職員の募集、採用にあたっては性別や年齢等で制限を設けておらず、職員のこれまでの経験や、それぞれの特技を活かせるよう取り組んでいる。 | 職員の採用にあたっては、人柄や入居者の方とのコミュニケーションを大切にし傾聴の姿勢のある人を求めており、年齢や性別等による排除は行っていない。介護・医療に関する経験豊かな職員も多く、職員が持ち回りで講師を務める内部研修の実施等、個々の能力を発揮する場面がある。 | |
| 14 | (10) | 人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる | 系列のグループホームと共同で人権に関する勉強会を実施している。ミーティングでは毎月勉強会のテーマを決め、担当者がミーティング時にテーマについて調べて来た事を発表し、理解を深めている。 | 運営推進会議の中で、包括支援センター職員により権利擁護に関する情報提供が行われたり、毎月のミーティングの中での身体拘束委員会の実施等、人権に関する意識を高める取り組みが行われている。 | |

福岡県 グループホーム ふれあいの家笹丘

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------------|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 15 | | 職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人内外の研修には極力参加するよう努めている。研修後には報告書を提出し、本人と研修に参加出来なかった職員の知識の向上を行っている。 | | |
| 16 | | 同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 系列のグループホームと定期的に交換研修を実施しており、また、管理者や職員は研修などで知り合った同業者とお互いの施設を訪問し合うなどして交流を図っている。 | | |
| 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 17 | | 初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 日常の会話、コミュニケーションから本人が望む事を読み取り、ご本人からの要望があった場合には意見、要望ノートに記載して他の職員とも情報を共有している。 | | |
| 18 | | 初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居契約前にご家族には問題点やご本人の状態をアセスメントシートに記載していただき、それに基づいてご家族の意見や要望についてじっくりと話す時間をとっている。 | | |
| 19 | | 初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 1人だけでなく、職員全員の目で見たと上で、協議し、その人が必要としている支援策を考え、実行している。 | | |
| 20 | | 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | お手伝いが出来る方には掃除やお血荒い等を行っていただいている。職員と買い物に出掛けた際には「荷物を持つか？」と気遣ってくださる入居者もおられ、こちらが介護するだけでなく、共に生活をする関係が築かれている。 | | |
| 21 | | 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族面会時には必ず日ごろの様子をご家族に伝え、また、ご家族の皆様の様子も伺うようにして一緒に入居者を支援できる関係を築いている。 | | |
| 22 | (11) | 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | ご本人から馴染みの場所に行きたいという要望があれば、個人レクリエーションの時間を設けている。馴染みの方の写真を時折見ていただきながら、その時の話などを聞くこともある。 | 運営者自らハンドルを握り、生まれ育った故郷への訪問に、県外まで出掛けることもある。個人レクリエーションや馴染みの美容室を利用する等、家族との連携も図りながら、個別支援が行われている。 | |

福岡県 グループホーム ふれあいの家笹丘

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---------------------------------|------|---|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 23 | | 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 重度化した入居者が多く、直接の関わり合いが難しい状況だが、会話のよく出来る利用者が、重度化した入居者に声掛けを行ったり、歌のボランティアの方と一緒に歌う姿も見られる。 | | |
| 24 | | 関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | ご家族の要望があれば病院や施設への紹介も行っている。退去後も職員はご本人、ご家族と連絡をとり、入院先などに顔を出し支援できるように努めている。 | | |
| その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 25 | (12) | 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居時のアセスメント、面会から本人の生活歴を伺い、ご本人から聞かれる思い出話などからも本人の思いを把握し、対応している。 | 今年から各担当職員によるセンター方式を活用したアセスメントが実施されており、家族にも記入してもらいながら取り組んでいる。職員の気づき等はミーティングにおいて共有が図られており、様式の工夫等により記録としても残していくことも検討して下さい。 | 入居者・職員の長い馴染みの関係の中で把握された思いや希望が、出来る限り実現するよう取り組んでいる。今後のアセスメントの充実が、更に具体的な介護計画作成や個別支援へのアプローチへとつながることを期待します。 |
| 26 | | これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご家族から記載して頂いたアセスメント、もしくは病院らの情報提供書をファイリングし、職員全員が生活歴を把握できるようにしている。 | | |
| 27 | | 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 毎日バイタルチェックを行っており、身体面の把握を行っている。精神面・一日の過ごし方は会話や動作から読み取り、申し送りを行っている。 | | |
| 28 | (13) | チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ミーティング時に職員全員でご本人のケアに何が必要かを話し合い、ケアマネジャーがまとめたケアプランを家族に説明し、要望があった場合にはプランに盛り込んでいる。入退院があった場合にはその都度プランの見直しを行っている。 | 今年から家族の協力を得ながらセンター方式を活用したアセスメントに取り組んでおり、今後の計画作成・日々のケアへの反映が楽しみとなる。本人・家族の意向を踏まえ、ミーティング等を通じて職員間で検討しながら、本人本位の計画作成に努めている。2ヶ月ごとに、モニタリング・評価を行い、現状に即した計画となるよう、見直しにつなげている。 | |
| 29 | | 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の様子は介護記録や介護日誌に記録し、申し送り時に情報の共有を行っている。 | | |

福岡県 グループホーム ふれあいの家笹丘

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 30 | | 一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 個人レクレーションの時間を設け、ご本人やご家族の希望があれば1人1人の要望に沿って柔軟な支援を行っている。 | | |
| 31 | | 地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の行事には積極的に参加させていただき、月に一度の民生委員さん、二週間に一度歌のボランティアさんの訪問があり地域と共同しながら支援を行っている。 | | |
| 32 | (14) | かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 家族、ご本人の希望があれば、本人の状態を一番把握しているかかりつけ医の受診も可能である。緊急時にはかかりつけの病院の搬送を行うようご家族との話し合いも行っている。 | 本人・家族の希望を踏まえ、適切な医療活用となるよう支援している。入居者一人ひとりの健康状態や医療活用の状況等について、申し送りノートに詳細に記載されている。協力医の往診時には、積極的に意見交換・情報共有を図り、また看護師の役割を明確にすることで、医療との連携体制の充実に図っている。 | |
| 33 | | 看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護師の資格を持つ職員や、医師、訪問看護師へ情報を伝え、相談し、ご本人が安心して治療が出来るような環境を作っている。 | | |
| 34 | | 入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時には職員が見舞いに訪れた際に関係者との情報交換を行っている。ご家族の通院が困難な場合には洗濯物など苑に持ち帰り、届けるようにしている。 | | |
| 35 | (15) | 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化した場合にはご家族との話し合いを行い、事業所が出来ることの説明を行っている。ご家族から見取りなどの要望があればそれに基づいた指針の書類を作成し、説明を行ったうえでサインをいただいている。 | 重度化や終末期に向けた方針を示し、同意を得ている。本人の意向を尊重しながら、状況の変化に応じて、家族・医師・職員間での話し合いを重ねながら、方針を共有するよう取り組んでいる。 | |
| 36 | | 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 応急処置、吸引機の使用などについては、今後訪問看護と協力して研修や訓練を行っていく予定である。 | | |

福岡県 グループホーム ふれあいの家笹丘

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 37 | (16) | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年に2回日中、夜間を想定した避難訓練を行い、意識を高めている。火災時には火災通報装置を使用し、消防署と職員に自動で連絡が伝わるようにしている。結果は運営推進会議で地域の方に報告し、地域との連携を図っている。 | 年2回、昼夜を想定した避難訓練を実施し、消防署の指導のもと、具体的な避難方法等についての確認が行われている。ホームの向かいにある他法人社員寮へも協力を要請しており、また、火災予防についての研修が行われている。 | |
| その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 38 | (17) | 一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 介護記録などご本人の個人情報が記載されている資料は事務所で保管し、個人の誇りを損ねないよう優しい声掛けを職員は心がけている。 | 入居者一人ひとりの個性を尊重しながら、穏やかな自然体での支援が行われている。様々な場面で自己決定を促し、本人本位の暮らしの実現に努めている。記録等の個人情報については、取り扱いに配慮し、事務所にて保管・管理が行われている。 | |
| 39 | | 利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 生活・日課のあらゆる場面においてもご本人の意思確認を行い、希望に添えるようにしている。 | | |
| 40 | | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | ご本人から、買い物や散歩の要望があれば、職員の都合よりもそちらを優先し、希望に添えるように努力している。 | | |
| 41 | | 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | ご本人の馴染みの美容室に行き、希望に沿った身だしなみができるよう支援を行っている。 | | |
| 42 | (18) | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者になが食べたいかを聞き、要望があればメニューに盛り込むようにしている。また、手伝いが出来る利用者には一緒に食事の準備や片付けをお願いしている。 | 日常的に地域の商店街へ買い物に出掛けており、刺身が食べたい等の希望がある場合には、新鮮な魚を捌いてもらっている。個々のペースにあわせた、ゆったりとした食事風景があった。外食の機会も多く、店側の理解を得て、ミキサーを持ち込む等、個々の状態にあわせた工夫が行われ、「食」を楽しむ場面を支援している。 | |
| 43 | | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | むせがあり、水分摂取が困難な方には寒天で作ったポカリゼリーやお茶ゼリーを食べていただいている。水分摂取量は記録し、脱水症状などの予防に努めている。 | | |

福岡県 グループホーム ふれあいの家笹丘

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 44 | | 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 食後は口腔ケアの声掛けを行い、ご自分で口腔ケア出来る方にはご自分で磨いていただくよう誘導し、出来ない方には職員が歯ブラシやスポンジブラシでケアを行っている。毎週1回訪問歯科に口腔内をきれいにさせていただいている。 | | |
| 45 | (19) | 排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表を確認して、ご本人の排泄パターンを調べ、時間に応じた声掛け、誘導を行っている。個々に合わせて紙パンツや布パンツを履き替えておられる方もいる。 | 個別の排泄パターンやサインの把握に努め、プライバシーへの配慮、個別の状況に対応しながら、トイレ誘導を行っている。グループホーム協議会の研修にも参加している。 | |
| 46 | | 便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 食事のメニューのバランスを考え、日ごろから食物繊維の多いものを提供するように心がけている。野菜が苦手な方には、食べやすいように細かく切って調理したり、野菜ジュースを提供し食べていただけるよう工夫している。 | | |
| 47 | (20) | 入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | ご本人が希望すればいつでも入浴が出来るよう準備している。また、排泄等で汚れた場合や汗をかいた時はいつでも臨機応変に対応出来るようにしている。 | 毎日入浴準備を行い、一人ひとりの希望や状況、また生活習慣等にあわせて、出来る限り柔軟な対応に努めている。 | |
| 48 | | 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | ご自分の生活リズムに合わせて、無理に起こしたりせず、疲れが見られる場合には居室で休んでいただくようにしている。 | | |
| 49 | | 服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬は誤薬が無いように個別の引き出しに管理している。薬の情報はファイリングし職員がいつでも閲覧できるようにしている。薬の変更などがあった場合には申し送りノートに記載し、情報の共有を行っている。 | | |
| 50 | | 役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 入居者それぞれの生活歴を把握し、また、日ごろからご本人に楽しみ事や好きなものを伺い、その人らしい生活が出来るように支援している。 | | |

福岡県 グループホーム ふれあいの家笹丘

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 | (21) | <p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p> | <p>ご家族の協力もお借りして個人の希望に応じた外出先へ出かけ、楽しんでいただける様に配慮している。</p> | <p>開設して9年目を迎え、少しずつ重度化している状況ではあるが、車椅子や徒歩にて、日常的に散歩に出掛けている。家族の協力を得ながら、個人レクリエーションの充実に向けて取り組んでおり、行きたい所、食べたいもの、生まれ育った故郷訪問等、出来るだけ実現できるように取り組んでおり、記録も充実している。</p> | |
| 52 | | <p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p> | <p>金銭の管理が難しい方が多く、ご本人にお金を渡す段階ではないが、買い物の際に支払いを行っていただく事はある。</p> | | |
| 53 | | <p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p> | <p>ご要望があれば、いつでも電話や手紙のやり取りが出来るようにしている。</p> | | |
| 54 | (22) | <p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p> | <p>外出・行事等の写真掲示や、季節に応じた花々の装飾などを取り入れている。</p> | <p>年数を重ねてきた建物ではあるが、手入れが行き届き、清潔感もある。普通の家庭同様に食器棚が並ぶ台所から、程よい距離感の中で食事を楽しむことが出来る食堂、ソファが配置されているリビングへと続いている。玄関ホールにもベンチが置かれ、くつろぎの場所となっている。自然体での支援の中で、家庭的な居心地のよい雰囲気にも包まれている。</p> | |
| 55 | | <p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p> | <p>仲良しの入居者同士で話したり、足を上げて座れるようにリビングにはソファを置いており、思い思いの時間を過ごしていただいている。</p> | | |
| 56 | (23) | <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p> | <p>入居者の居室には全て馴染みのものを持ってきていただいております。写真やアルバムをみて懐かしまれる姿もみられる。</p> | <p>和室を基本とし、希望や状況にあわせて二間続きの和・洋室も用意されている。天袋のある押入れがあり、生活習慣や希望・状況に応じて、ベッド・布団使用を選択している。使い慣れた家具や、人生史を窺い知ることができる品が持ち込まれ、個性と生活感ある居室となっている。</p> | |
| 57 | | <p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p> | <p>廊下やトイレには手すりをつけており、手すりを使った歩行訓練や立位などを行い、自立支援を行っている。</p> | | |